

安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.51 2019.11.6
TEL71-2466

豊科公民館大ホール 無料お試し体験会

豊科公民館はリニューアルして
から3年がたち、最大700人収
容できるホールの魅力をさらに広
く大勢の方々に知ってもらい利用
を促進したいと願い、ホール無料
お試し体験会「レッツトライファ
ースト on ステージ」を行った。



この企画は、
初めてホールを
使う方を対象
に、1団体上限
2時間の制約の
中で体験しても
らうというもの
で、今回が初の
試みであった。
7月31日から8
月6日までの7
日間に、14団体
114人がホー
ルで楽器の演奏
やコーラスなど
を楽しんで体験し
た。

合唱2団体、
バンド演奏3団
体、文化琴、オ



カリナ演奏それ
ぞれ1団体ず
つ、バイオリン
アンサンブル1
団体、ピアノ演
奏6団体と、音
楽関係の方々
に人気であった。
合唱団の方々
はホールでの演
奏会の前にこの
体験会に参加
し、立ち位置を
確認したり音の
響き具合を確か
めたり、繰り返し
練習していた。

本番の演奏会に自信を持って
臨むことができると好評であつ
た。バンド演奏を体験された方々
からは「音の響きが良く、大きな
会場で気持ちよく演奏することが
できた。また、ぜひやってみたい」
「バンドフェスティバルのような
催しを企画してもらえれば、仲間
を誘って参加したい」といった感
想が寄せられた。また、ホールを
リニューアルした折にコンサート
用のピアノが新調されていること
もあり、特にピアノを弾く方々か

ら大人気であった。広いホールの
ステージで演奏することは憧れと
同時に腕を磨く機会でもあり「こ
んな立派なピアノを活用しないの
はもったいない」「もつとピアノ
を弾く機会があるとうれしい」と
いった声がたくさん聞かれた。

常念フェスティバル 華やかに仮装行列練り歩く

8月31日、常念
フェスティバル実
行委員会は「常念
フェスティバル」
を常念ドームと堀
金中央公園で開催
した。



第3回となる今
年度は、クツ飛ば
し大会やカラオケ大会等のイベン
トを増やし、白バイやパトカーに
乗って写真を撮るコーナーも開催
し、多くの人に参加してもらえ
る場を設けた。



堀金中央公園では、農産物や加
工品販売、堀金社協のかえで焼き
のキッチンカーな
どの出店があり、
常念の里こども食
堂ではぬかくどで
炊いたご飯におに
ぎりを作り、豚汁
と共にふるまった。
常念ドームでは
フリーマーケット
が開催され、31の

この企画は2月にも予定してお
り、音楽関係の方はもちろん、ダ
ンスや舞踊、演劇や芸能など、幅
広い分野、幅広い年代の方々に体
験していただけることを期待してい
る。広くてきれいで音の響きも素晴
らしいホールをぜひ体験してほしい。



ブースが入った。
パフォーマンスで
は堀金出身の島
田さん(ギター)、
山田さん(フルー
ト)が出演した松
本音楽団の演奏や
スコップ三味線、
落語、空手演武な
どが披露された。

午後には中央公園でカラオケ
大会が開かれ、堀金小1年の小
澤美柚さんが「パプリカ」を歌い
ながら踊りも披露した。常念フェ
スティバルのメインイベントであ
る仮装行列には7団体が出場し、
戦国武将やおぼけの衣装に身を包
んだグループが、常念ドームから
物産センター、中央公園までを練
り歩き観衆を魅了した。

最後に参加者全員が輪になって
常念ギネスに挑戦
した。ラージボー
ル卓球のオレンジ
ボールをおたまで
落とさずにリレー
し、119回の記
録が常念ギネスと
して登録された。



私は一生懸命

私は、昨年4月から明科短歌同好会の代表を務めている。私が短歌を始めたきっかけは、20年前、長野県シニア大学松本(旧老人大学)の講座で学んだことによるものだ。短歌の面白さ、奥の深さと仲間との集いは私の老後を充実させてくれた。妻を亡くして現在独り身の私の心の支えにもなっている。



明科短歌同好会
代表 内川 長弥さん

明科短歌同好会には仲間の誘いがあって4年前に入会させていた。それまでは別の歌会で活動していて不思議なことに身近な地元の歌会には接点がなかったのだ。

明科短歌同好会の歴史は古い。発足のきっかけは昭和54(1979)年に開講した明科公民館の婦人学級「文学のすすめ」にさかのぼる。当時の明科中学校校長上條清一先生を講師に「短歌の鑑賞と習作」と題した短歌の作り方の話を聞き、月1回の短歌会を始めたの



た短歌の作り方の話を聞き、月1回の短歌会を始めたの

が短歌同好会の結成となった。回を重ねるごとに進歩を遂げ、昭和55(1980)年12月には歌集『ともしび』第1号が発刊された。

歌創る 友と会う日よ ともしびは
寄りゆくごとに 心いぎなう
(岩淵当子さん 作)

昭和56(1981)年、町報あかしなに掲載されたことも励みとなり、会員からも次々と良い歌が生まれるようになった。『ともしび』はその後も発刊されたが、平成17(2005)年に21冊目が発刊され、それが最終号となった。

発足当初から20人を超える会員で推移してきたが、会員の高齢化もあり、現在の会員数は10人ほどである。同好会の母体が婦人学級なので私以外は全員女性が占める。それで私が代表にまつりあげられたかもしれないが、会の存続のために人生の終点まで頑張っていきたい。「持続せよ、持続は力なり」との証を心に刻み、会員相互の交流の場として歌会を続けたいと思う。



蝸牛 歩むが如く のろのろと
八十五歳の我 城山登る
(内川長弥 作)

古きを尋ねて

③③ 鳥羽館跡

(豊科)



土塁と堀跡

鳥羽館跡は県道316号線「立石」の信号を東に1キロほど入った所にあり、近くに上鳥羽公民館、豊科南社会体育館がある。館跡の西北隅に土塁と堀跡を残している。

当時の館主は丸山氏で、15世紀後半〜16世紀頃には居たと思われる。鳥羽郷の開発の拠点であり、近くの鳥羽堰から館の周りに水を引き堀にしている。本館は熊倉街道沿いにあり交通の要衝で、西村小路は家臣の居住地であり、今も町並みをなしている。

現在の館の周りは、圃場整備され水田が広がっており、当時の様子が分かりにくい。また、鳥羽堰の上流には金龍寺境内北側の真々

部氏館跡、下流には本村公民館のある成相氏館跡があり、同じような時期に館主がいたようで、鳥羽堰の水を利用して地域開発をしたといわれている。

堰沿いに散策してみると、上流の真々部地区は水量が多く、上鳥羽地区に入ると堰が枝分かれし水量が減る。今は、勘左衛門堰や拾ヶ堰があるので豊富な水量を確保しているが、当時は、かなり大変であったと思われる。今の水田地帯の基礎が、この時期にあったと思うと感慨深いものがある。鳥羽堰を通じた地区の繋がりを考えるのも楽しいものである。

この3つの館跡をサイクリングで回ってみると、車で回ると見落としてしまうものが見えてきて面白と思う。参考までに、本村の成相氏館跡から鳥羽館跡を経由して真々部氏館跡までおよそ片道6キロの行程である。

参考文献

豊科町誌



安曇野市史跡 鳥羽館跡

地区公民館だより

住吉地区公民館(三郷)

住吉地区は三郷地域の北側に位置しており、約130世帯、430人が暮らしている。黒沢川の度重なる氾濫で水害が起きたり、逆に扇状地の先端ということで横堰が作られるまでは、稲作のための水が足りずに先人が苦勞した土地でもある。住吉地区公民館では、世代や出身を超えた区民の交流に重点を置き、さまざまな事業を展開している。

6月にはウオーキングイベントを実施しているが、昨年からの安曇野ハーフマラソンに日程を合わせ、マラソンコース沿道まで歩いて選手の応援をして戻るという設定にしたという。常に新しい工夫をこらし、地区の人々が参加しやすいように改良を加えている。



7月の最終日曜日は、午前中にソフトボール大会、午後には育成会と共催で魚つかみどり・金魚すくい大会という、地区最大の事業がある。今年7月28日に行う予定だったが、あいにく

の雨でグラウンドが使えず、ソフトボールは中止となった。午後の魚つかみどりは予定通り行うことができ、会場のおづみ野排水路には子どもを連れた親御さんやおじいちゃん、おばあちゃんたちが集まった。ニジマスが放流され、いよいよつかみどりが始まる。最初は低学年の小学生が水に入るが、なかなかつかまえられない。高学年や中学生も加わり、必死に逃げるニジマスを手際よくつかまえ、持参したバケツに次々と入れていく。最初はおそろおそろ水に入っていた子どもたちも、時間がたつにつれびしょ濡れになって夢中で魚を追いかける。30分間必死で魚をつかまえ、バケツいっぱいになり、意気揚々と土手が上がってくる。「にぎやかくていいだねえ」と、わざわざ見に来てニコニコと話をしていく人もいた。

秋には「郷土を知る会」という、歴史や地域を学ぶ機会を設けていることや、住吉が開発されて400年を迎えた平成27(2015)年に三郷村史より抜粋した『住吉』という冊子を作り、全戸配布するなど、古いものもしっかりと次世代へ引き継ぎながら、新しい地区づくりをしているようだ。



グループレビュー紹介 ふるさと堀金を楽しむ会(堀金)



設立総会であいさつする
山田事務局長

「ふるさと堀金を楽しむ会」は5月に発足した新しいグループである。山田清二事務局長が「堀金には、なぜ寺院がないのだろうか」と素朴な疑問を投げかけたことが引き金となり、複数の方の考えが発展して学びのうねりが起こり、会として動き始めたようだ。

発起人会を3月に開き、名称、会則を決定、4月に会設立を発表、会員募集を公表し、5月に設立総会にこぎつけた。6月には「岩原の自然と文化を守り育てる会」と合同で、戦国時代の岩原城主の末裔が存続する富山県砺波市の歓婦寺を訪ね、堀金の歴史をしのぶ旅に会員が集った。

7月は堀金の歴史を探る時代別講座、8月は地区の生い立ちを訪ねる地区別講座を開き、9月には倉石あつ子さんによるトイレの民族的な話などを聞いた。発足から半年が経過した10月現在、登録会員82人で、月1回講師

を招き、堀金公民館で講座を開催し定例会として活動している。普段の生活では、行事や目先の出来事に追われ、地域の事象には目が届かず、知らずに過ごしている事が多いものである。そこで、堀金地域の知っているようで知らない地区の史跡や資料、伝承などから歴史や経緯を学びたいの思いを抱く有志が集まり、同会が発足した。安曇野市の他地域や松本市からの入会者もいて勉強している。

平倉重則会長は「単なる勉強会ではなく、子どもにも学んだことを伝え、堀金の魅力を大勢の人に発信していきたい」と言う。規約には「5年を目安に完了させ、だんだん集約する」と、特別な意向を掲げている。そこには、年齢を重ね、記憶を将来の世代に繋げる歴史の使者にならんとする地域の会員の強い思いが集約されている。

年会費1000円
取材 会長・平倉重則
問合せ 事務局長・山田清二
73・4854



花：マツムシソウ
絵：加々美 豊

みさと
フラネタリウムと
科学体験

三郷公民館では、主体的でふるさとを愛する子どもを育て、年に数回「三郷まなび隊」という体験講座を設けている。9月7日に、三郷まなび隊は佐久市子ども未来館に出かけた。参加者は親子10組、総勢20人で、出発前からワクワク感が伝わってきた。



「ムーンウォーカー」やチューブのなかを勢いよく滑る「ブラックホールチューブ」に歓声をあげたり、プラネタリウムの星空に息を飲んだり「天体卵」を真剣にのぞき込んだりと五感を精一杯働かせる姿が印象的だった。また、全員でカレイドスコープ(万華鏡)作りも体験し、万華鏡の中に映し出される小世界に驚きの声をあげていた。こうした豊かな体験学習は子どもたちにとって、自然界がもつ不思議や美しさに気づききっかけとなったようだ。



あかしな
きのこの知識を
深め味わう講座

明科公民館は10月3日、日本菌学会会員の降旗傳さんを講師に迎えて、「きのこの知識を深め味わう講座」を開催した。24人の参加者は、食べられるきのこのこと食べられないきのこの違いや発生のメカニズムを写真や実物を見ながら学んだ。

とよしな
夏休み
フィールドチャレンジ教室

豊科公民館は、7月30日「夏休みフィールドチャレンジ教室」を光城山山頂及び長峰山山頂で開催した。講師は三郷昆虫クラブ代表の那須野雅好さん。市内の小学生と保護者13人が参加した。捕虫網を手にした小学生は、あつと言う間に昆虫を捕獲し、那須野さんに見てもらい名前や特徴を教えてもらおうと、捕えた昆虫を自然に戻し、また次の虫を追いかけたい。長峰山山頂は人が手を入れ守ってきた半自然草原で貴重な動植物が多く、安曇野市の大切な自然環境である。子どもたちは、夏休みの1日を元気に過ごし、貴重な体験をした。



で、きのこの出具合は遅いようだが、関係者の努力で集められたきのこを使った試食会では、用意されたてんぷらやうどん、おにぎりが、どんどん胃袋の中に消えていった。



ほたか
趣味の講座
押花教室

穂高公民館は9月4日に「趣味の講座・押花教室」第1回目を開催した。講師は「アトリエ美花」を主宰する、さいとう美花さん。全5回の講座の中で、しおり・ボールペン・キャンドル等、各自の唯一無二の押花作品を制作する。講師から、茶色く変色するのを防ぐために強力乾燥シートを使う、押花になりやすい草花を使う、乾燥して縮むのを防ぐために重しをするなどの説明があった。6人の参加者は、各自持参の草花から小さくて平らな花を選び、ピンセットでつまんで乾燥シートとティッシュに挟み、熱心に楽しく押花作りに取り組んだ。



ほりがね
田多井の歴史を学ぶ

9月17日、堀金公民館講堂で、地域物語「堀金のお宝発見」講座を開催した。

堀金地域の各地区の足跡を探るシリーズ第2弾で、元豊科郷土博物館館長の百瀬新治さんを講師に迎え「大昔から長い歴史を積み重ねた集落―田多井」の演題で、堀金で最も古い生活の跡が残る地区の歴史や文化について学んだ。平日の夜の講座にも関わらず70人余が参加した。

北村で発見された尖り底の土器は、安曇野で最古(8000年前)の縄文時代の遺跡のひとつであることや集落の営み、稲作用水の確保など、魅力的な話や新たな発見をする話があり、参加者は価値ある時間を過ごした。



櫻
千葉県から安曇野市に移住して4年。安曇野は素晴らしい。周囲を山々に囲まれる景色、たくさん緑、きれいな水と空気、豊かな歴史、芸術・文化の施設や活動が充実、渋滞や混雑があまりない。この素晴らしさをどんどん発信していきたい。

(Y・I)